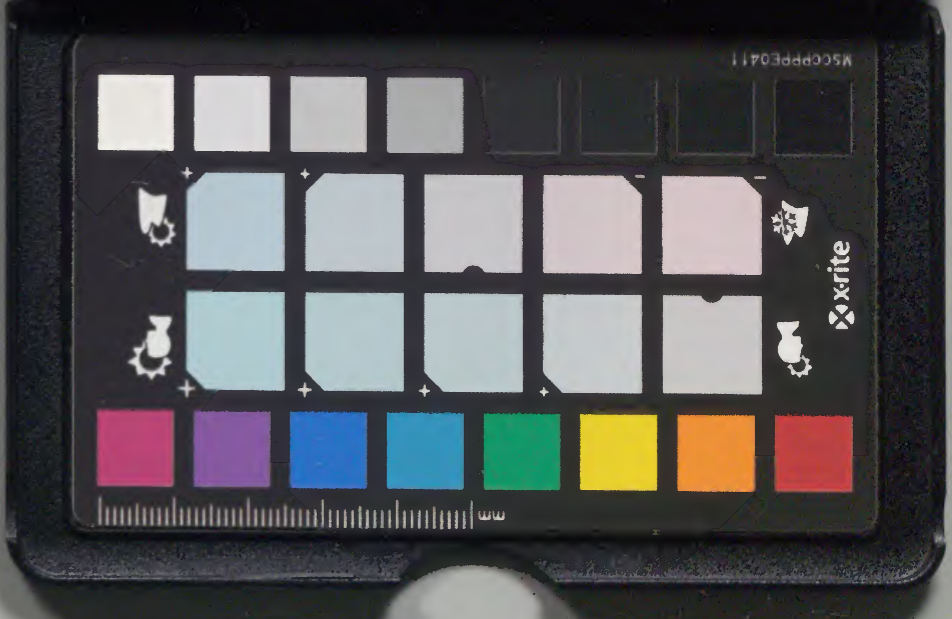


武徳大成記

二十二

内閣文庫	
番號	和 35099
冊數	31 (23)
函號	150 8

内閣文庫	
架	五〇函
冊	三三
號	三三九
類	和書



武德大成記卷二十二

駿府城改造事

慶長十二年丁未春正月

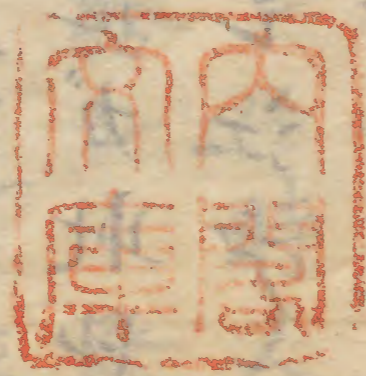
神君江戸ノ城ヲ

台徳院殿ニ譲ラセ給ヒ駿府ノ古

城ヲ修造シ御居城トシ給フ改テ

御普請アリ郭内ヲ廣メ諸士ニ屋

宅ヲ賜フ諸大名并ニ越前美濃尾



張參河遠江ノ諸城主ニ命ゼラレ
後夫ヲ出サレメ三牧助右衛門山
本新五左衛門瀧河豊前守佐久間
河内守山城宮内少輔等ニ奉行仰
付ラレ去年左中將薩摩守忠吉瘡
毒ヲ煩ヒ給ヒ危カリケルガ此比
平復セラレ清洲ヲ發途シ江戸ニ
來ラレ大久保加賀守忠常が宅ヲ

旅館トセラレ忠吉ハ
台徳院殿同腹ノ御弟ナレハ時人
殊ニ重ンズ尾州へ還リ給ント發
途セラレケルニ疾ヲコリ芝ノ旅
館ニ逗留セラル
台徳院殿大ニ驚カセ給ヒ芝ノ館
へ赴セ給ヒ病ヲ問ハセラル其後
神君モ赴セ給フ

台徳院殿 日夜御使ヲ遣サレ江戸
芝一里ノ間御使ノ往來絶ルヒ
ナシ飲食薬湯ニ至ルテテ詳ニ聞
召テ少シモ御食進ムト聞召セバ
喜ビ給フ少シモ疲シ給フト聞召
セバ愁ヒ給ヒ諸醫ニ仰付ラシ様
々療治アルドモ遂ニソノ驗ナク
三月五日二十八ニテ逝去セラル

台徳院殿 深ク御悲嘆アリ忠吉ノ
家臣石川主馬助 稻垣將監 中川清
九郎 増上寺ノ葬所ニテ殉死ス小
笠原監物 忠重ハ故アリテ松嶋ニ
蟄居シケルガ此事ヲ聞テ急ギ増
上寺ニ來リ殉死ス忠重ガ從士佐
々喜藏ト云ヘル者スナワキ追腹
シケル是月駿州興國寺城主天野

三郎兵衛康景家ヲ造作セシトテ
竹ヲ伐リ置キ番ノ者ヲ守ラセ
ケルニ田原ノ郷民盜ニ取リケル
ハ番ノ足輕其頭人ヲ捕ヘテ殺シ
ケルニ餘賊ニテ逃去リ田原ノ代
官井出甚助ニ訴ヘケル甚助使ヲ
興國寺ニ遣ヒ康景ガ足輕ヲ誅ス
ベシトアリケルハ康景云ケルハ

盜ヲ殺スハ古今定リタル事ナリ
イハンヤコノ足輕私ノコトワザニ
アラズ此上モシ罪ト定リタラバ
康景罰セラルベシ罪ナキ足輕ヲ
誅スベキ子細ナシト云ヒ遣ヒケ
レバ甚助モ決シガタク言上
シケルハ田原ノ郷人盜ニテモナ
キヲ康景ガ足輕殺シタリソノ罪

ナタバシ足輕ヲ誅スベシト康景
カ方へ言ヒ遣ケレバ康景我ニ
ニ振舞足輕ヲ誅スベジキト申ス
由訴ケレバ
神君大ニ怒ラセ給ヒテ康景ハ我
ニナル事ハスベジキ者ナリ讒
人ノ言ナシナラン重テ糺斷シ給
ベシト仰アリケレバ本多上野介

卷二十一

四

正純此由ヲ康景ニ告ゲ密ニ云聞
セケルハ此事タトイ貴殿ノ誣ヒタ
ル事ナラズトモ公論ヲ勞スベキ
ニアラズタバテ枉テソノ足輕ヲ誅
シ訟ヲヤムベシト云ケレバ康景
答ケルハ直ヲ以テ曲シルト云フ
ハ義士ノレハザニアラズタバ我
が身ヲ去テ訟ヲ止ムヘシトテ興

卷二十一

四

國寺ノ城ヲ捨テ出奔ス閏四月八
日越前國主從三位前權中納言兼
三河守秀康久ク瘡腫ヲ患ヘテ越
前ニテ逝去セラルル年三十四ニ成
リ給フ長子忠直年十三ニテ江戸
ニ居ラレケルガ公命ヲ奉リテ
台徳院殿ノ命ニ依テ急ギ越前ニ
赴キ國ヲ嗣セラルル秀康ハ

卷二十一

台徳院殿ノ廢兄ニシテ武勇モ才
智モアリテ時ノ人憚リケル逝去
ノ時侍臣土屋左馬助永見右衛門
殉死ス是月二十六日右兵衛督義
直甲斐國ヲ轉ジテ尾張國ニ封セ
ラル
台徳院殿ノ命ニヨリテ平岩主計
頭親吉ニ犬山ノ城ヲ賜ヒ義直ノ

卷二十一

輔トシテ清洲ノ城ヲ留守ニ國中
 ノ政務ヲ聽シム二十九日松平隱
 岐守定勝神君ノ異父弟ニ命ゼラシ伏見
 ノ城代夕ラシメ西丸ニ居ラシメ
 給フ嫡子河内守定行後ニ隱岐守ト云フハ
 父ノ封ヲ嗣ギ遠州懸河ノ城ヲ領
 ス大番頭渡邊山城守水野市正命
 ヲ承リ各一組ノ番士ヲ率ヒ伏見

ノ城ヲ警衛ス伏見ノ三年番ト云
 是ナリ大番頭替々コレヲ勤ム後
 元和三年大番頭高木主水正阿部
 左馬助二人ソノ組ノ士ヲ率テ大
 坂ノ城ヲ警衛ス其後年々相替テ
 勤ム是大坂城番ノ始ナリ

將軍陣幕御封來陣幕ノ御下
 將軍陣幕御封來陣幕ノ御下

朝鮮聘使來朝事

コレヨリサキ朝鮮國王ヨリ松雲
等ノ三使ヲ來ラシメ和ヲ議シケ
ルニ先年ノ亂ニ日本ヘ囚ヘ來ル
者數百人ヲ松雲ニ添ヘ還シ遣サ
レケレバ其中ニ朝鮮王ノ縁類ノ
者モアリ還リテ日本ノ事ヲ委細
ニ語りケルユヘニ朝鮮王疑ヤ三

テ慶長十二年正月朝鮮王ヨリ呂
祐吉慶暹ユキキ丁好寛チヨウカウト云ル三使ヲ來
聘ス三月宗對馬守義智朝鮮ノ三
使ヲ同道ニ京師ニ來リ此由駿河
ヘ申上ケレバ
神君命アリテ三使ヲ先ヅ江戸ヘ
召連シ
將軍ヘ謁セシムベシト仰アリケ

卷二十一
シバ對馬守三使同道ニテ江戸ニ
赴キ五月六日朝鮮王ノ書并ニ方
物ヲ獻ズ

朝鮮國王李昞^三 奉^レ書^ヲ

日本國王^三 殿下^ニ

交鄰有道自古而然二百年來海
波不揚何莫非^レ天朝之賜而敝邦亦何負於

貴國也哉壬辰之變無故動兵構
禍極慘而及先王丘墓敝邦君臣
痛心切骨義不與^ト

貴國共戴一天六七年來馬島雖^下
以和事為^上請實敝邦所耻兼聞令

者
貴國改前代之非行舊交之道苟
如斯則豈非兩國生靈之福也故

馳使价以為和交之驗不腆土宜
具載別幅統希
盛亮不宣

萬曆三十五年正月日
朝鮮國王李 昖

蒼鷹伍拾連
人參貳百斤
白苧布參拾匹
帽段貳百匹

白綿布五拾匹
黑麻布參拾匹
花文席貳拾張
白紙伍拾卷
青皮壹拾張
虎皮參拾張
豹皮貳拾張

整

台德院殿三使ヲ營中へ召出サシ
饗燕ヲ賜フ大廣間上壇ニ纒網ニ
間ヲ鋪キ其上ニ錦ノ茵ヲレキテ

台德院殿御直衣ニテ端坐ニ給フ
御下壇ノ左ニ座ヲ設テ正使通政
大夫呂祐吉副使通訓大夫慶暹從
事官丁好寬列坐ス宗對馬守ニ仰
付ラレ馳走チ換撮アイス盃盤サス三ナ金銀
ノ飾リニテ八珍美ヲ盡ス
台德院殿御前ニハ四方膳ナリ三
使ニハ脚附ノ膳ヲ設ク享禮畢テ

三使退出ス白銀二千兩劔刀鎧ヲ
三使ニ賜フ國王ハノ返簡ヲ授ク
日本國源秀忠奉復
朝鮮國王殿下
王章落手拜披薰讀卷舒勿措不
勝歡悰矧又呂祐吉慶暹丁好寬
之三使不遠千里海陸到敝邦而

傳ルヤ

靈區之異產如別幅所載件々納
御受懇情益切感愧交加夫吾邦於
大貴國結鄰盟者所從來太久矣今
事也要修舊交敵邦亦何存疎志乎
勢利之交古人所羞只宜以信義
為心也維時綠竹風靜黃梅雨晴
伏冀頒序保蓄不宣
生外龍集丁未夏五月日

日本國源日秀忠

右回簡ハ相國寺ノ西笑長老ニ仰
付ラレ書シム三使江戸ヲ發シ駿
府ニ到ル二十日
大神君ヲ拜シ奉ル人參六十斤白
苧布三十匹蜜百斤蠟百斤ヲ獻ス
神君烏帽子直衣ヲ召サセラレ纒
網錦茵ニ御坐アリ三使再拜兩段

禮畢テ退出ス時ニ駿府ノ城壁ニ
一ダ成ラズ故ニ享禮ナシ三使ヲ
バ本多上野介正純ガ宅ニテ酒食
ヲ賜ヒ鎧刀ヲ賜ハリ宗對馬守三
使ヲ召連シ對馬ニ歸ル命ニ依テ
先年ノ囚^トシタル者多ク残り居タ
ルヲ數百人三使ニ從テ朝鮮へ歸
ラシム秋七月三日駿府城御普請

成就スルニヨリテ
神君移ラセ給フ諸大名各賀ニ奉
テ獻物アリ
台徳院殿酒井雅樂頭忠世ヲ御使
トシテ新城ヲ賀セラル
神君悅シメ給フ

東國門前御普請

東福門院降誕事

冬十月四日

東福門院源和子^{カク}江戸ノ城ニテ降

誕ニ給フ

台徳院殿ノ御女ナリ元和六年

先女御寛永元年中宮六年東福門

院卜號ニ奉ル

神君江戸ニ赴セ給ヒ西丸ニ御座

アリ十八日

神君茶ノ會ニテ

台徳院殿ヲ饗セラル長尾景勝伊

達正宗佐竹義宣御相伴ヲ仰付ラ

ル二十八日

台徳院殿本丸ニテ

神君ヲ迎へ奉リ茶會ヲ獻セラル

十一月朔日

神君江戸ヲ發途ニ給ヒ浦波河越
忍等ノ處々ニテ放鷹^{ハクヨク}ニ給ヒ數日
ニシテ駿府ニ歸ラセ給フ十二月
二十二日駿府ノ城火災アリ新築
ノ殿舎寶器金銀悉ク焼失ス大閣
ヨリ贈ラレタル白雲命アリテ諸
ノ茶壺此災ニ焼失ス
國ノ大名來問スルコトナカラシ
ム

卷三十一

三

神君其夜ハ近侍ノ臣竹腰小傳次
ガ宅ニ御座ニス井伊直政ガ舊宅
直君ノ異ソノ翌日本多上野介ガ
父兄ナリ宅ヘ移ラセ給フ駿府ノ海岸ニ久
能山アリ四方絶壁ニシテ屏風ヲ
立タルガ如シ焼タル金銀ヲ悉ク
久能山上へ藏メサセラル榊原内
記榊原七郎右衛門コシテ守ル是年

卷三十一

三

七月濃州大垣ノ城主石川長門守

康通卒ス嫡子九歳ニテ家ヲ嗣ク

九月遠州横須賀城主松平出羽守

忠政卒ス賀大須氏嫡子三歳ニシテ家

ヲ嗣ク後ニ松平式部太輔忠次ト云フ元和元年神原遠江守

卒シテ嗣ナキニヨリテ十月信州

忠次神原ノ家ヲ嗣ク飯田城主小笠原兵部太輔ガ室痘

ヲ病テ卒セラル年三十一信康ノ御女ニシテ神君

ト信長ナリト池田右衛門督利隆始

テ江戸ニ來ル御孫ナリト

台徳院殿松平氏ヲ授ラレ武藏守

ニ任ス長光ノ太刀國光ノ刀左安

吉ノ脇指ヲ賜フ國ニ歸ル時ニ鷹

馬白銀時服ヲ賜ヒ懇命アリテ鷄

殿兵庫頭ニ仰付ラレ案内トシテ

鎌倉ヲ巡見アリテ直ニ駿府ニイ

信長

夕リ
 神君ニ謁シ鷹馬ヲ賜フ池田備中
 守カ子長常七歳ニテ從五位下ニ
 叙シ出雲守ニ任ズ植村土佐守泰
 忠剃髮スルニヨリテ二位ノ法印
 ニ仰付ラル京師ノ市人吉田光好
 ニ仰付ラシ富士川ノ舟路ヲ通シ
 駿州岩淵ヨリ甲府ニイタラシム

諸民其利ヲ悦ブ中山武陽ニ
 台徳院殿駿府ニ赴キ給フ事
 慶長十三年戊申春正月駿府城經
 營ヲイソガセ給フ本曾熊野伊豆
 山ヨリ大木ヲ伐リ出シ運送ス參
 河遠江ノ間懸河濱松吉田岡崎ノ

人夫ヲ召シコシテ勤ム二月大坂
ノ秀頼痘瘡ヲ患テ危カリケレバ
西國中國ノ大名密々ニコシテ問
フ福島正則速ニ大坂ニ到リソノ
病ヲ問フ三月駿府ノ城經營成ル
神君移ラセ給フ水野對馬守重仲
ニ常州ニテ一萬石ヲ賜ヒ頼宣小
長ノ傳夕ラシム中山左助ニ後
福備前

守フト常州ノ地五千石ヲ賜ヒ頼房
幼名鶴君ノ傳夕ラシム夏六月
神君秀康ノ女ヲ越前ヨリ召サセ
ラシ毛利長門守秀就ニ嫁セシム
輝元カ此比丹波國前田主膳狂人
嫡男ニテ京師近江ノ間ヲ横行シ暴虐
ナル事多カリケルニ水口ノ邑人
ト喧嘩ニ捕ヘラレ伏見ハ訴ヘケ

シバ主膳ヲ獄ニ下シ駿府ヨリ下
知シ給ヒソノ領邑ヲ没収セラル
篠山領五萬石ヲ松平周防守康重
ニ賜フ山陰道要害ノ城ナルユハ
ニ康重命ヲ承リ八上ノ古城并ニ
篠山ノ地圖ヲ獻ズ
神君ソノ地圖ヲ御覽アリテ使者
石川善大夫ト云ケル者三州以來

御前へ出タル者ナシバ召サセラ
レ土地ヲ委少問ハセ給ヒ新城ヲ
築カシメント仰アリテ藤堂和泉
守松平大隅守玉虫對馬守石川八
左衛門内藤金左衛門ニ奉行仰付
ラシ丹後丹波播磨美作備前備中
安藝伊豫土佐阿波讃岐紀伊ノ人
夫ヲ後ス

山上ノ城ナレハ井ニツ
鑿ケルニ石ヲ切閱ケレ

ハ二年ニテ成就ス此間池田三左衛門福嶋左衛門大夫加藤左馬助等モ篠山へ伊賀國主筒井伊賀守行テ巡見ス放遊ニ淫亂ニシテ國ノ政ニ怠リケルヲソノ家臣中坊飛彈守駿府へ来リ訴ヘケレハ
神君按問ニ給ヒ安藤治右衛門正次ヲ檢使トシテソノ國ヲ沒收セラル本多中務大輔松平飛彈守并

伊兵部少輔ニ仰付ラレ桑名加納佐和山ノ衆士ヲ率テ上野城ヲ警衛ス中務大輔飛彈守ハ國ニ歸リ兵部少輔ハコレヲ守ル秋八月十日
台徳院殿駿府へ赴キ給フ二十日駿府城七重ノ天守上棟アリソノ一重ハ廣廿十二間タテ衰十間ナリ七

尺ヲ一間ト又四面ニ階アリ二重
 三重ノ廣クワモ袤三十一重二同ニ四面
 二欄干アリ四重ハ廣廿十間タテマ袤八
 間屋椽鬼板ヲ白鐵ニテ造ル懸魚
 釘頭コトぐク銀ニテ飾カサレリ五重
 ハ廣袤八間屋椽懸魚唐破風鬼板
 三十一白鐵ニテ銀ノ飾アリ六重ハ
 廣廿六間袤五間其飾ハ五重ト同

ニ最上ノ第七重ヲ物見ノ段ト云
 フ銅瓦ニテ瓦頭ヲ金ニテ飾リ破
 風ハ銅ヲ以テ包ニ懸魚釘頭ハ銀
 ニテ飾ル鴟吻ニ慰斗板鬼板三十一黃
 金ニテ包ム匠人ノ長中井大和守
 槌ヲ打ニヨリテ賞トニテ從五位
 下ニ叙シ錢千貫銀八袋一袋ニ二拾枚ヲ入
 太刀一振ヲ賜フ其餘大工ニ三十

賜物アリ
神君
台徳院殿ト天守ニ登リ上棟ノ儀
式ヲ上覧ニ給フ二十五日
神君本丸ニテ
台徳院殿ヲ饗ゼラシ行平ノ名刀
ヲ進ゼラル是月藤堂和泉守高虎
伊豫ノ領邑ヲ轉ジテ伊賀國并ニ

伊勢数郡ヲ賜フ九月三日
台徳院殿江戸ニ還ラセ給フ畿内
中國西國四國北國ノ諸大名三十
ノ駿府へ参ジ品々ノ物ヲ獻ジ經
營ノ成コトヲ賀シ奉リ直ニ江府
へ参賀ス
神君駿府ヲ御發途アリテ關東處
々へ放鷹ニ給ヒ江府へ入セ給フ

台徳院殿府中ニテ御迎ニ出サセ
給フ此比生駒讚岐守妻子ヲ江戸
ノ宅ヘ移ス

神君悦ビ給テ役夫ノ半ヲ免サレ
浅野彈正長政モ妻子ヲ江戸ヘ移
ス冬十二月台命ニヨリテ永樂ノ
錢ヲ止テ薄錢ヲ用フ清須ノ小笠
原和泉守ニ忠吉ノ舊臣常州笠間ノ城

邑三萬石ヲ賜フ

松平康重カ舊所領ナリ康重ハ今

秋篠山ノ城ヲ賜フ

神君駿府ヘ歸セ給フ

台徳院殿命アリテ土井大炊頭安

藤對馬守青山圖書ニ領邑ヲ賜フ

吉良左兵衛義彌侍従ニ任ス後ニ上野

介ト是年松平隱岐守定勝伏見ノ

邊ニテ領邑一萬石江州ノ志賀高

島二郡ノ内ニテ四萬石ヲ賜フ伊
 達正宗ニ松平氏ヲ授ラシ来國光
 ノ刀ヲ賜フ池田藤松輝政ニ男ニ
 テ神君
外孫十歳青山國書ヲ贈リ
 台徳院殿ノ御前ニ召ニテ元服ニ
 松平氏ヲ授ラシ忠總ト名ツク從
 四位下ニ叙セラシ侍從ニ任ジ左
 衛門督ト称ス正宗ノ刀ヲ賜フツ

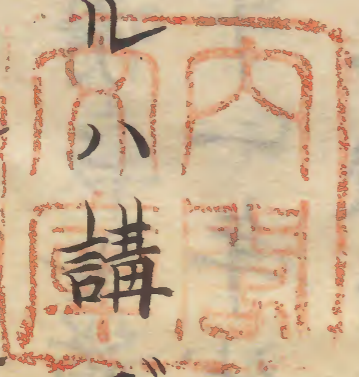
ノ弟勝五郎七歳松平氏ヲ授ケ忠
 雄ト名ツク從五位下ニ叙シ宮内
 少輔ニ任シ腰刀駿馬ヲ賜フ三月
 高力河内守清長卒ス年七十九秋
 八月飛鳥井宰相雅庸賀茂社人松
 下氏蹴鞠ヲ專ニスル事ヲ訴フ蹴
 鞠ノ業ハ他人ノ專ニスル事ニア
 ラズト申上ル此由上聞ニ達メ

駿府ニテ宅地ヲ賜ヒ日夜御前ニ侍リ學術ヲ問ヒ給ヒ四書六經ヲ請ジ七書等ノ書ヲモ讀シム是ヨリサキ朝鮮ノ役ニ命前參平史神君大閣ニ從ヒ肥前那護屋ニ御座シ時初テ藤惺窩ニ世ニ妙壽遇院ト稱スセラシ學術ヲ聞テ悅セ給フ文祿二年惺窩ヲ江戸へ召テ大學ノ講

談ヲ聞給ヒ貞觀政要ヲ讀シム慶長五年神君京都ニ御座シ時惺窩中華ノ道服ヲ着シ謁見ス代史神君屢召サレテ漢書并ニ呂東萊ガ十七史ヲ讀シメラル時ニ僧承兌タイ僧靈三五山ノ老僧ニテ日々御前ニ侍リシカバ此輩ト伍ヲナス

コトヲ快カラズ思ハレケレバ惺
窩ハ隱居シ人ニモ逢ズ深キ棲スミカニ
入テ出ルコトモナシ其比道春京
都ニテ初テ朱子集註ノ論語ヲ講
ジ門人多ク集リケルヲ外史清原
秀賢ヒテカクソノ才ヲ忌テ奏聞シケルハ
右ヨリ勅許ニテナケレバ新註ニシテヲ
講ズルコトハナリガ夕ニ朝廷ニ

テサヘ此古例ナレバイハンヤ地
下ニテ新註ヲ講ズベキコトニテ
ハナシ罪セラレベシト申ケレバ
傳奏ノ輩
神君へ申上ラル
神君笑ハセ給仰アリケル
ル者奇特ナルコトナリコシテ訴
ル者ハセバキコトヲ云者ナリト



アリケレバソレヨリ後ハ秀賢モ
 申出スコトモナシ慶長十年
 神君侍臣永井直勝ニ仰付ラシ道
 春ヲ召テ初テ謁シ奉ル十一年伏
 見ノ城ニテ召出サシ来年駿府へ
 来ルベシト仰付ラル十二年三月
 道春駿府へ参シ四月江戸へ参シ
 台徳公へ謁シ奉ル時ニ三畧并ニ

漢書高祖本紀カウセキカンシ項籍韓信張良陳平
 ガ傳ヲ讀シムソノ後道春駿府ニ
 歸リ
 神君ニ侍ルコト數月命アリテ道
 春長崎へ赴キ直ニ京都ニ力ヘル
 是年駿府ニテ命アリテ御庫ノ管
 鑰ヤクヲ預ラル

大織冠像破裂事

慶長十三年戊申春夏ノ間多武峯
大織冠ノ像破裂ス寺僧禁中へ奏
問ニ古例ナレバ平復ノ宣命使ヲ
請奉ル諸卿ソノ事ヲ委ク問ハシ
ケルニ僧徒イヒケルハ大織冠ノ
廟前ニ古松アリ大サ五六圍此木
大ニ裂^{サケ}テヤニ流イヅル又櫻布ト

云處ニテイツクトモナク云ケル
ハ靈像破裂スト誰人ノ言ケルト
モシレズ衆僧不思議ノ思ヲナシ
僉^シ議シテ寺僧ノ精鍊ナル者ヲ撰
テ靈前ニ到リ帳ヲ隔テ像ヲ撫ケ
ルニ膿^{ウツ}流シ膚裂テ大ニ臭^{ニク}氣アリ
土人イヒケルニ古ヨリ今ニ至テ
七度ナリ朝廷ニ事アレバ必ズ此

凶相アリテハルハコトナリ朝廷ノ
重キ御慎ナリト申上ケレバ公卿
大ニ驚キ僉議セラレイニダ奏聞
ハナシレシカルトコロニ禁裡ニ内
亂アリテ
帝ノ怒甚シク下シクケレバ南都
ノ僉議モシバラク止ミケル此比
花山少將忠長飛鳥井少將雅賢猪

熊侍従及兼保備後守等弱キ輩ニ
テ容貌ウルハシカリケルニヒソ
カニ後宮ノ官女ヲ伴ヒ出シテ遊
會イ淫イ飲イシケルニ事アラハレテ備
後守ヲ捕ヘ拷問シケレバ白狀ス
帝怒リ給テ所司代板倉伊賀守勝
重ニ勅アリテ刑ヲクハヘシム勝
重此事ヲ駿府へ申上ケレバ

神君聞召シ勝重ヲ以テ諫レメ給
ケルハ朝家ノ内亂古ヨリ多ク記
レヲケリシカレドモ君仁愛ノ德
ヲ以テユルシ宥メ給ハ、後ノ人
ニテモ耻ル心アルベシト仰遣サ
ル勝重スナハチ奏聞シケレハ
帝聞召納給ヒ罪一等ヲ減ジテ三
官女ヲ伊豆ノ大島并ニ八丈島へ

流シ忠長ヲ津輕へ竄シ雅賢ヲ隱
岐ノ島へ謫シ松木大炊兩侍從ヲ
硫黄ガ島へ流サル猪熊ハ濫行ノ
最ナリ兼保ハ宮門ヲ掌ル者ナレ
バ罪コトニ重ク
帝ノ甚憎ニ給フ輩ナリケレバ死
罪ニ處セララル時人言ケルハ大織
冠凶相ヲアラハシ給フハ此ノ流

斬ノ行ハル、兆ナリト云ケル
帝ノ怒モ止ケシハ宣命使ヲ多武
ノ峯ニ遣サル人品ヲ擇ニレ吉田
左兵衛督兼治神職ノ長ニテソノ
任ニ當リタル者ナリトテ勅ヲ奉
リ南都ニ赴ク大和河内遠近ノ人
民ドモ三ナ多武峯ニ集ル舊式ニ
刻限アリテ亥ノ時ニ定リタル事

ナレバソノ期ニノゾンテ兼治廟
庭ニ進ニ宣命ヲ讀ントレケルニ
俄ニ人ノ心ヲソロシクサレ
クナリテ兼治モ群集ノ道俗ニナ
畏慄キ四方ニ逃散テ二里餘モハ
レリ出ル
帝聞召シ兼治ガ失ヲ責ラレソノ
任ヲ罷シム時ニ五條少納言菅原

為^ダ適^キハ累世宣命ヲ掌ル家ナリシ
レバ為^ダ適ヲ選出サシ多武峯ニ登
リ廟前ニテ宣命ヲ讀上ケレバ靈
像モ平復ニ給フ
帝為^ダ適ヲ賞セラシ勅アリテ一階
ヲ授ラル
神君ヨリモ御下文アリテ稱羨セ
ラル

慶長十四年己酉春正月
神君義直ヲ清洲ノ城ニ入ラシメ
シト思召レ尾州ニ赴キ給フ路次
參河遠江ノ間ニテ鷹將ニ給フ義
直モ御跡ヨリ駿府ヲ發途ニ岡崎

ニテ

神君ニ從イ奉ル二十五日清洲へ
 着セ給ヒ故國主薩摩守忠吉ノ從
 士ヲ悉ク義直ノ家臣トシテ各俸
 禄ヲ定ラル大坂ノ秀頼ヨリ片桐
 市正且元ヲ使トシテ太刀白銀百
 枚ヲ義直ニ贈リコシテ賀セラル
 美濃伊勢ノ國士三十人來テコレヲ
 賀ス美濃ノ加納殿神君ノ御娘ニ
 二テ奥平信昌

ノ室桑名ノ御孫女本多美濃守
 力室ナリ來テ

神君へ御對面アリ紀伊國主淺野
 幸長ハ義直ト婚儀ノ約アリケシ

ハ來テ賀ス二十三日

台徳院殿酒井雅樂頭忠世ニ上州
 善養寺邑五千石ヲ加賜フ酒井家
 次ガ男忠勝從五位下ニ叙レ宮内
 大輔ニ任ズ二月

神君駿府へ還ラセ給フ伊勢ノ内
宮外宮九月ニ遷宮アリケルユヘ
ニ命アリテ米六萬俵ヲ奉納セラ
ル三月清洲ノ舊臣小笠原和泉守
富永丹波守戸田加賀守松平攝津
守松平石見守等近年不法ニヨリ
放逐セラレ和泉守ハ去年笠間ノ
城主ニ仰付ラレケレドモ罪ニ曰

リテカクノ如シ夏四月駿府ノ殿
庭ニ怪キ男來ル手足ノ指ナク髪
ヲ亂シ弊タル衣ヲ著テ青蛙ヲ食
テ居ケル番ノ人何方ヨリ來ルト
問ケレバ手ヲ舉テ天ヲ指ス人々
殺ント云ケルヲ
神君聞召シ殺スニジキ由仰付ラ
レ追放セシムソノ行末セラズナ

リニケル五月京極宰相高次率ス
 年四十七嫡子忠高江戸ニ居ケル
 命アリテ若狹ニ還ラシム伯耆
 國主村忠一卒ス 年二十中村式部
少輔一氏が子ナ
 判賜松平氏嗣ナクシテ絶ケシバ古
 田大膳大夫重治一柳監物直盛ニ
 仰付ラシ其國ヲ警衛セシム朝比
 奈源六郎久貝忠三郎弓氣多源七

郎等ニ下知狀ヲ授ラレソノ國ヲ
 監ス十七日 阿蘇山嶽ニ
 台徳院殿藤堂和泉守高虎ガ江府
 ノ宅ヘ遊ビ給フ高虎御膳ヲ獻ズ
 秋七月煙草ヲ禁ゼラルコトヨリ
 サキ南蠻人煙草ヲ持來ルソノ筒
 ヲ蠻語ニテキセルト云諸國ニハ
 ヤリテキセルヲ人々懐ニ入テ競

テ煙ヲ吹ケルガ無益ノ物ナレバ
禁制ニ給ケレドモ止ザリケルニ
ヨリ又制法ヲ仰付ラレ八月脇坂
中務大輔安治淡路國ヲ轉ニ伊豫
ノ國邑五萬石ヲ賜フ藤堂高虎ニ
命ゼラレ部下ノ士ヲシテ淡路ヲ
警衛セシム岡部内膳正長盛ニ丹
波龜山ノ城邑二萬石ヲ賜フ舊領
ヲ合

テ三萬石松平越中守定綱定勝ガ下
次男
總國山川邑一萬五千石ヲ賜フ近
年西國ノ諸大名大船ヲ作り城郭
ヲ修造シケル
神君疑ヒ給ヒ法制ヲ定ラレ九鬼
長門守守隆向井將監久永源兵衛
ニ仰付ラレ五百石以上ノ軍船ヲ
點檢シコトぐク淡路島へ漕アツ

メ没収セラルソノ船ドモ皆駿府
江府へ漕送ル蜂須賀稻葉が大船
二艘ハ守隆ニ賜フ冬十月
神君石川主殿頭忠總ヲニ命ゼラシ
遠州濱松ノ城ヲ没収セラル松平
左馬允ガ所領ナリコレヨリサキ
水野市正ガモトニテ松平左馬允
ヲ招キ遊宴ス其座客又米左平次
服部半八ト口論シ半八刀ヲ拔キ
左平次ヲ一刀切テ去ントス左平
次刀ヲ揮テ遂ケルガ左馬允半八
ヲタスケント思ヒ左平次ヲ抱キ
留ケルヲ左平次云ケルハ我斬ラ
シテ堪忍ナルニジ留給フナト云
ケルニ左馬允ヲ抱テハナサズ
左平次大ニ怒テ左馬允ヲ突殺ス

左平次モ座客ニ斬殺サル半ハ
相州へ逃ケルガ捕ヘラレ誅セラ
ル市正モ其咎ニヨリ自殺ス左馬
允ハ織田有樂ガ壻ニレテ三人ノ
男子アリ濱松没収セラレ妻子ヲ
江府ニ到ラシム伏見ノ城番士三
年ニテ替リコノ秋江府ニ還ル其
間法ニ背ク輩ソノ輕重ニ從ヒ罪

セラル海北三吉莊田小傳次荒川
長五有賀忠三郎鷓蛄伊右衛門間
宮彦九郎等ハ死罪ニ處セラル小
斐二左衛門駒井孫四郎岡部莊七
小川左太郎藤方平九郎津戸左門
戸田喜左衛門等放逐セラル上總
介忠輝君ノ家臣山田長門守松平
讚岐守誅セラル是ヨリサキ忠輝

君ノ家臣皆川山城守并ニ長門守
讚岐守数人駿府ニ上書シテ忠輝
君暴横ナル事数條ヲ訴ヘケルニ
忠輝君江府ニアリテ大ニ怒テ駕
ヲ馳テ駿府ニ詣リ四収取國國格格並並テ
神君ニ謁シ奉リ過ナキコトヲ直
ニ申上ラレシケレバ長門讚岐ハ誅
セラレ其餘ノ山城守等ハ罪輕キ

ムハニ放逐セラレ又野宗安入道
卒ス年八十三初名 宗能石川日向守家

成卒ス年七十八十一月
神君江府ニ赴セ給ケルニ三島ヨ
リ微疾アリテ駿府へ還セ給ヒ安
藤帶刀直次ヲ以テ江府へ告給フ
台徳院殿スナハ子本多佐渡守正
信ヲ駿府へ遣サレ御煩ニキコト

ヲ窺ヒ問セ給フ不日ニテ御平

復アリ

台徳公下知ニ給ヒ中國西國北國

ノ諸大名各江府へ参観ニ年ヲ超

ルニテ滞留ス是

神君ノ御内意ナリ酒井忠利ガ長

子忠勝從五位下ニ叙ニ讚岐守ニ

任ズ忠勝後ニ代十二月石川主

殿頭忠總濃州大垣ノ城ヲ賜テ石

川日向守ガ嗣タラシムコレヨリ

サキ日向守家成ガ嫡子康通大垣

ヲ領ズ先テ卒ニソノ子幼少ナル

ユヘニ江戸ヨリ大垣ニ到ル家成

卒ニテ康通ガ子幼少ナルユヘニ

江府へ来ラシメ後トニ安藝忠總ハ

家成ガ外孫ナルユヘニ其家ヲ嗣

シメ給フ

忠總ハ大久保相模守忠隣ガ次子ナリ牧野

右馬允康成卒ス年五十五水野備

後守水野對馬守命ヲ兼リ濱松ノ

城ヲ守ル去年對馬守ハ頼宣ノ傳

トナルトイヘドモ濱松沒収ノ後

松平左馬允ガ舊臣等暴横ナルニ

ハニ備後守ト二人仰付ラレコレ

ヲ鎮メシム是月

台徳院殿命アリテ頼宣ニ遠江駿

河五十萬石ヲ封ゼシメ頼房ニ常

州水戸二十萬石ヲ封ゼシム是年

松平武藏守利隆ガ長子新太郎

光政備前岡山ニ生ル牧野豊前守

ヲ御使トシテ賀セシメ給ヒ青江

ノ刀信國ノ脇指ヲ新太郎ニ賜フ

利隆ニハ銀服ヲ賜フ備中國ニテ

食邑千石ヲ利隆ノ妻ニ賜フ式部

太輔康政ノ女トシ給ヒ利隆ニ嫁セラル松平

伊豆守信吉ガ二子

台徳院殿ノ召ニヨリテ元服ス長

ヲ忠國ト名ヅク後ニ山城守ト號ス御刀ヲ

賜フ次ヲ忠晴ト名ヅク後ニ伊賀守ト號ス

御脇指ヲ賜フ三井寺ノ照高院日

光山ノ座禅院并ニ衆徒高田専修

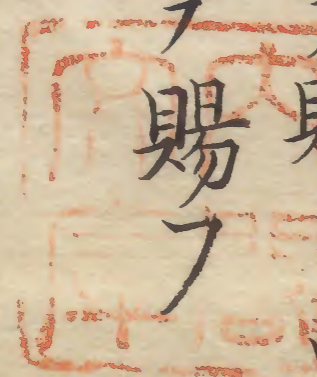
寺ノ僧東寺ノ僧徒関東真言古義

ノ諸寺鞍馬寺ノ僧徒高野ノ衆徒

各制法寺領ノ御朱印ヲ賜フ

院ニ修驗道法制ノ下文ヲ賜フ東

寺ノ長者ニ制法ノ下文ヲ賜フ



卷三

四十一

卷之三

食邑千石 利隆之妻 二賜 不 却

太輔 康武 利隆 白 德院 院 美 松平

伊豆守 信吉 力 二 六

寺 依 長 藤 二 國 去 八 寸 丈 先 讓 及 長

新 三 所 領 道 法 國 以 下 丈 丈 賜 日 東

發 國 長 寺 餘 給 解 表 昨 丈 讓 不 解 禮

倫 諸 若 海 國 寺 八 給 授 高 賜 合 餘 後

老 八 曾 東 禪 八 給 授 國 東 真 言 古 義

